

MUSASHINO^{Vol.111} *for* TOMORROW

巻 頭

音楽教育は美の教育である

守重信郎(本学楽器博物館主任・学芸員／本学講師)

卒業生インタビュー

第三希望から打楽器の道へ

黒田英実(NHK交響楽団 打楽器奏者)

海外音楽事情

楽園のような武蔵野での経験

ルドルフ・ピールマイヤー(指揮／本学客員教授)

表紙：平良栄一(テノール)

October 2014
vol.111

音楽教育は美の教育である

武蔵野音楽大学楽器博物館の軌跡と 福井直秋の教育観

● 守重信郎（本学楽器博物館主任・学芸員／本学講師） ●

武蔵野音楽大学は、1967（昭和42）年にわが国初の楽器博物館を開設しました。この博物館は、現在5,600点を超える所蔵数を誇るアジア最大の楽器博物館に成長しています。音楽大学に楽器博物館を誕生させるというアイデアは、武蔵野音楽大学を創立した福井直秋（1877～1963）の教育観に基づくもので、その音楽教

育に対する信念が、それまでに例のなかった楽器博物館開設の原動力となったのです。わが国を代表する楽器博物館である武蔵野音楽大学楽器博物館の歴史をたどり、福井直秋の音楽教育観に触れることで、なぜ音楽大学に楽器博物館が必要なのか、音楽教育の意義、そして音楽の持つ力について考えてみたいと思います。

楽器収集の開始

武蔵野音楽大学楽器博物館の楽器収集は、1953（昭和28）年に福井直弘前学長がヨーロッパから1本のヴィオラ・ダモーレ（Viola d'amore）を持ち帰ったことから始まります。福井直弘前学長は、ブリュッセルでのユネスコ主催の音楽教育国際会議に日本代表として出席するために、1953（昭和28）年5月16日から同年8月11日まで欧州を訪れましたが、その際



▲ ベートーヴェンホール落成式 福井直秋初代学長によるテープカット（1960年10月15日）

にこの第1号の楽器資料を入手し、本学に納品しました。このヴィオラ・ダモーレの納品を契機に、武蔵野音楽大学では徐々に楽器の収集が始まりました。やがてこれらの楽器資料は、「武蔵野音楽大学楽器陳列室」として展示・利用されることになります。

ベートーヴェンホールの落成と楽器陳列室の開設

武蔵野音楽大学は、1960（昭和35）年10月15日にコンサートホールを落成し、福井直秋初代学長により、大ホールは「ベートーヴェンホール」、小ホールは「モーツァルトホール」と命名されました。すでに1954（昭和29）年に神奈川県立音楽堂が完成していましたが、ベートーヴェンホールは、本格的なオペラの上演も可能で、コンサート用パイプオルガンを有するシンフォニーホールとしては日本初（オルガンは翌年設置）のホー



守重信郎 *Noburo Morishige*

1959年生まれ。1981年武蔵野音楽大学器楽学科ヴィオラ専攻卒業。1983年ザルツブルクモーツァルテウム音楽大学ヴィオラ科卒業。1981年にザルツブルク州立モーツァルテウムオーケストラ専属エキストラオーディションに合格し、1984年まで同オーケストラのほぼ全ての演奏会に出演。1985年より武蔵野音楽大学楽器博物館に勤務。1995年度第2回国際芸術連盟音楽賞受賞。1998年武蔵野音楽大学楽器博物館主任。同年より武蔵野音楽大学社会人のための夏期研修講座講師（「楽器学入門」担当）。著書に「武蔵野音楽大学楽器博物館カレイドスコープⅡ」（共著）。本年7月1日より、時事通信社コラム「楽器万華鏡」を地方新聞社に発信中（約半年間185回連載予定）。現在、武蔵野音楽大学楽器博物館主任・学芸員。武蔵野音楽大学講師。日本音楽学会、日本教育学会、日本社会教育学会会員。博士（総合社会文化）。



▲ 第1号の楽器資料を手にする福井直弘前学長



▲ ベートーヴェンホール落成式
記念演奏会：プリングスハイム指揮 武蔵野音楽大学管弦楽団・合唱団（1960年10月15日）

ルでした。そして武蔵野音楽大学楽器陳列室は、このコンサートホールに併設して設計され、ホール落成と同時に開設されました。

開設当時の楽器数は邦楽器、西洋楽器、民族楽器など計85点でした。10月15日の落成式当日には、式典前に秩父宮妃殿下など、式典後にはポーランド大使など、多数の来室者がありました。また翌日は午前9時半より公開を始めましたが、この日は音楽教育関係者、評論家の来観者が多かったことが記録されています。

ベートーヴェンホールの落成式でのパンフレットには、当時の福井直秋学長の挨拶が掲載されていますが、そこには音楽教育の信念と楽器陳列室開設の意義が端的に述べられています。

「ホールの落成と同時に、私共の念願の一つでありました楽器陳列室を開設致しましたが、これは永い伝統をもつ世界各民族の音楽を少しでも学生諸氏に理解せしめ、音楽の巾の広さを知らしめる為に他なりません。現在は微々たる内容であります、

今後次第に充実いたしたい所存であります」

施設の拡大と 資料の増加

当初、楽器陳列室は4号館3階の353室のみでしたが、資料の増加により隣接する351室も楽器陳列室として利用されました。その後も資料数は着実に増え、楽器は昭和35年度



▲ ヤンコ・ピアノ

から昭和38年度までの間で約200点に増加しました。その後さらに福井直敬図書館長・初代楽器博物館長（現理事長・学長）の時代（昭和40年～46年）には貴重な資料が多数収集されました。

この時代で特に注目すべき収集資料は、1969（昭和44）年に納品されたヤンコ・ピアノです。これはハンガリーのヤンコが考案した特殊な鍵盤をもつアップライトピアノで、現存するものはわずかしきありません。また同年納品のイタリアの名工テストーレ作チェロ、1970（昭和45）年納品の金箔のケースに収められた歴史的木管楽器セットなどは、世界的に貴重な文化財です。そして、その流れは1972（昭和47）年に納品され、現在本学博物館のシンボルになっているナポレオン帽子型ピアノへと続きます。



▲ 開室当時の武蔵野音楽大学楽器陳列室展示風景（1960年頃）



▲ 木管楽器セット



▲ ナポレオンピアノ



▲ 箏「節摺（ふしずり）」

武蔵野音楽大学 楽器博物館の開館

1967（昭和42）年10月4日、武蔵野音楽大学は邦楽器研究家水野佐平氏より邦楽器資料57点、その他邦楽関係資料172点の寄贈を受けました。このコレクションには「節摺」の銘を持つ箏（平安後期～鎌倉時代）や金蒔絵近江八景図付きの箏（大正4年）など貴重な資料が多数含まれています。それを契機に武蔵野音楽大学はそれまでの楽器陳列室を拡大改組し「武蔵野音楽大学楽器博物館」として開館しました。当日は記念式典をベートーヴェンホールにて行い、福井直弘学長（当時）による開館式の後、水野佐平氏から寄贈される邦楽器コレクションの受贈式、さらに水野氏がドイツとオーストリアに楽器を寄贈する式典も行われました。その後引き続き同ホールで記念演奏会が行われ、人間国宝の中能島欣一氏（芸術院会員）、宮城

喜代子氏（宮城会会長）、菊原初子氏（関西地唄重鎮）らが出演しました。当時わが国を代表する指揮者、近衛秀麿氏指揮による武蔵野音楽大学管弦楽団の演奏も行われました。

楽器博物館は、353室の邦楽器展示室、447室の外国楽器展示室の2つの展示室の他、ベートーヴェンホール上階ロビーにも楽器が展示されました。また、351室は楽器倉庫として利用されました。これらの展示資料は学内利用に供されると共に、1967（昭和42）年10月11日より学外にも無料公開されました。

音楽大学に於ける 楽器博物館の必要性 ～福井直秋の教育観～

わが国で前例のない音楽大学附属の楽器博物館の開館には、先にも少し触れましたが、その前身である楽器陳列室を開館した初代学長、福井

直秋の卓越した音楽教育観が強く影響を与えています。福井直秋は早くからわが国において音楽教育の必要性を説き、生涯をその普及に捧げた人物です。戦前から音楽教育の意義について確固たる信念を持ち、社会が国家主義的に偏っていく中で、真の音楽教育のあり方を常に主張し続けました。

1924（大正13）年に「音楽教育は善の教育ではない。美の教育である」と述べていますが、当時の音楽教育の主流は唱歌教育で、その目的は道德的な内容を児童に習得させることでした。しかし、真の唱歌教育は仁義の精神や道德を教えることではなく、純粹に美しいものに感動する心を養うことが目的であり、その教育こそが明るく豊かな日本の未来を築く基礎になると考えました。

さらに音楽教育の価値は、単に技術の習得にのみあるのではなく、強く豊かな人格を形成するところにあると主張しました。1932（昭和7）年、「もっと音楽を実生活の上に働かせるようにすべきである」と述べ、さらに1936（昭和11）年、「唱歌教育が技能学科として扱われ、単に美しく歌わせようとするだけでは、尊い音楽教育の使命は果たせない」と述べています。音楽教育の真の目的は、単に専門分野の技術向上にあるのではなく、



▲ 武蔵野音楽大学楽器博物館開館式 ベートーヴェンホールでの記念演奏会
近衛秀麿氏指揮・宮城喜代子氏（箏）武蔵野音楽大学管弦楽団
（1967年10月4日）



▲ 武蔵野音楽大学楽器博物館開館式
447室「楽器展示室」見学風景（1967年10月4日）

幅広い知識を含めた人格向上にこそあると主張したのです。この信念は、武蔵野音楽大学の教育方針「音楽芸術の研鑽」と「人間形成」として生きています。

この幅広い知識の習得のためには、世界中のさまざまな音楽文化を学ぶことが必要であり、その為には、その音楽文化を語る世界中の楽器を理解することが、音楽家にとって必要不可欠なのです。この音楽教育観こそが、音楽大学に楽器博物館が必要とされる根拠となります。

楽器博物館の発展と分館の新設

その後、更なる所蔵資料の増加に伴い、武蔵野音楽大学は前述した4室から、楽器博物館を江古田キャンパス内の独立した建物（地上3階、地下1階）である9号館に移転しました。

また、武蔵野音楽学園は、1971（昭和46）年に埼玉県入間市内に「入間キャンパス」を開設し、その後キャンパス内に高等学校と大学音楽学部を設置しましたが、それに伴い、1978（昭和53）年度より入間キャンパスにも楽器博物館を開館しました。

さらに1993（平成5）年、武蔵野音楽学園は東京都多摩市に「武蔵野音楽大学パルナソス多摩」という教育研修施設を開設し、そこに、コンサートホール「シュェーベルトホール」

と「楽器展示室」を設置しました。「パルナソス多摩楽器展示室」は、大学の教育成果を地元に戻元する目的で開室され、テーマに基づく企画展を半年ごとに行っています。

このように武蔵野音楽大学楽器博物館はアジア最大の資料を所蔵し、入間市と多摩市にもそれぞれ分館、分室を持つ博物館へと成長したのですが、その過程において例えば、1980（昭和55）年には浩宮殿下（現皇太子殿下）もご来館された他、イェルク・デームス氏による歴史的ピアノの演奏会、クララ・シューマン愛用ピアノによる演奏会など、所蔵資料によるコンサートを企画し地域の文化発展に努めてきました。楽器博物館は、音楽文化の素晴らしさを、学生のみならず一般の人々にも体感してもらえよう努力し続けなければなりません。

新たな未来に向けて新楽器博物館の建設

来る2017（平成29）年度スタートに向け、武蔵野音楽学園は、歴史的価値の高いベートーヴェンホールを残した、江古田キャンパスのすべての建物を新築する「江古田新キャンパスプロジェクト」を進めております。キャンパス中央にはゆったりとした地階広場「サンクンガーデン」が広がり、そこに隣接して新楽器博物館が開設される予定です。この新楽器博物館は、福井直昭現館



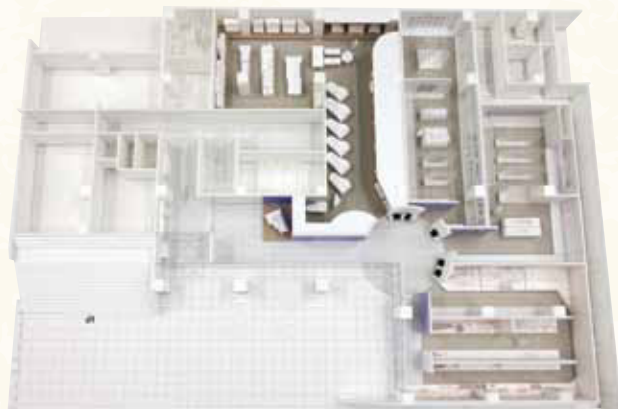
▲ ヴィオラの展示をご覧になる浩宮殿下（1980年11月24日）

長のもとで、最新鋭の設備を備え、専門家から一般の人々まで学び楽しめる博物館として（株）大林組により設計が進められています。そして、それまで入間キャンパスにある邦楽器の名コレクションも移され、世界にも例のない国際的視野によって超一流の楽器資料を集めた楽器博物館が誕生します。

「美しいものに感動する心を養う」ことこそが音楽教育の本質であり、そのために「世界中の素晴らしい楽器に触れることが必要である」という、福井直秋初代学長の信念は、「わが国初の楽器博物館の誕生」という形で具現化されました。そして、この信念は、2年後に開館する「江古田新キャンパス楽器博物館」に受け継がれ、さらに大きく発展する時を迎えようとしています。



▲ 入間キャンパス楽器博物館1階「鍵盤楽器展示室」



▲ 2017年度竣工 江古田新キャンパス楽器博物館完成予想模型

卒業生インタビュー

第三希望から打楽器の道へ

● 黒田英実 (NHK交響楽団 打楽器奏者) ●

さまざまな楽器を受け持ち、オーケストラでも独特な存在感を発揮している打楽器奏者。プレイヤーの大半を男性が占めるなか、日本を代表するオーケストラのNHK交響楽団に、創設以来初の女性打楽器奏者として入団したのが武蔵野出身の黒田英実さんです。打楽器との出会い、その魅力と難しさ、武蔵野の思い出などを語っていただきました。
(2014年8月6日取材、文責編集部)

— 打楽器を始めたきっかけは？

黒田 小さな頃にピアノを習っていましたが、手が小さくて難しい曲が弾けず、練習がイヤになってしまいました。ただ音楽は好きでしたから、中学に入ったら吹奏楽をやろうと。最初に希望を聞かれ、第一希望はサクソ、第二希望はホルン、そして第三希望にドラムと書いて提出しました。第三希望までに打楽器と書いたのは、私ともう一人だけ。必然的に打楽器に割り当てられたというわけです(笑)。プロを目指すようになったのはかなり遅く、先生についたのは高校3年の6月からです。

— 黒田さんが考える打楽器の特徴、魅力は？

黒田 ドラムセットや鍵盤楽器、ティンパニ、スネアなど多彩な楽器ができるのが単純に楽しいですね。それに色々な音色を自分で考えられるし、音のキャパシティがすごく広いと思うんです。自分に任せられる選択の幅が広いぶん、自由な発想や提案ができる、それが一番の魅力で

はないでしょうか。独奏曲では、どの打楽器を使うか自体を演奏者に委ねる曲も多くあります。オーケストラの中では、全体の流れが滞ってしまった時に音で方向を示すことができるのが、打楽器ならではの持ち味だと思います。

— 武蔵野の大学院修了からNHK交響楽団入団に至る経緯をお聞かせください。

黒田 大学4年から外部の色々なオーケストラにエキストラとして出演させていただき、大学院の2年からはN響にもお世話になっていました。そうした活動をしていた昨年4月、オーディションが開かれることになりました。海外からも含めて多数の応募があったそうです。1次オーディションは、スネアから始まってトライアングル、グロッケンシュピール、大太鼓、アタッチメント(大太鼓とシンバルを同時に演奏)、最後にシンバルと全部で10分近くじっくり演奏すると

いうもの。6月の2次オーディションは、全楽団員の前でソロ1曲とオーケストラスタディ*を4曲ほど演奏しました。結果、一定数の票をいただいて合格し、そこから1年間の試用期間を経て今年の7月に正式に入団となりました。試用期間の最後にダレル・アンさん指揮の「ボレロ」で第一スネアを演奏したのですが、その舞台が今までの人生で一番緊張しましたね(笑)。

*オーケストラ曲の難しいパートを集めたもの。入団試験の際に課題として出されることが多い。

— NHK交響楽団での演奏会に向けてのおおよそのスケジュールは？

黒田 プログラムは大体2年先まで決まっています。乗り番になる場合、担当楽器が決まるのは直前ということも多いです。リハーサル期間は長くて3日。A・B・Cの各定期演奏会が月1回ずつあるのですが、A定期とC定期は練習3日の本番2日、B定期は練習2日の本番2日。オーチャードホー



▲ 武蔵野時代、学内でのソロの練習風景



▲ 武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会 ヴェルディ「レクイエム」サントリーホール(2007年)
ティンパニを演奏する黒田さん



黒田英実 Hidemi Kuroda

大阪府立岸和田高等学校卒業。2008年、武蔵野音楽大学音楽学部音楽学科打楽器専修卒業。2010年、同大学院修士課程修了。第25回日本管打楽器コンクール第3位、パーカッション部門最高位。ソリストとして日本フィルハーモニー交響楽団と共演。これまでに打楽器を安藤芳広、安藤淳子、小谷康夫の各氏に師事。現在、NHK交響楽団打楽器奏者。

ルの定期演奏会などもありますが、他は大体練習1日か2日で本番、そのプログラムでツアーをするという感じですね。武蔵野のオーケストラと一番違う点は、やはりプロは練習時間が短いということ。今になって思えば、1曲を半年もかけてじっくり練習した学生時代の経験は、プロとしての基本をつくるうえで非常に役に立っています。

—— オーケストラでの演奏の際に心掛けていることは？

黒田 一貫しているのは、「音楽の流れを妨げない」「音楽の邪魔をしない」ということ。常に音色のことを考えています。ただ、まだまだ未熟で目の前の音に集中するのが精一杯。諸先輩方のように、もっと先のことを意識して、どうしたら最後まで音楽的に良い演奏ができるかに配慮しつつ音を出せるようになるのが目標ですね。

—— プロの打楽器奏者に一番必要なことは？

黒田 「空気を読む」ことに尽きると思います。いくら技術があっても、空気が読めないとオーケストラでは通用しません。スキルの部分では学生時代でもある程度身に付けること

は可能ですが、そこから先が難しいところです。そういう意味では、いかに引き出しを増やせるかがポイント。トライアングルひとつとっても、1種類の音色だけではダメ。どういう音色にしたいのかという想像力が求められます。

—— 武蔵野時代を振り返って最も思い出深いことは？

黒田 師事した安藤芳広先生は本当に素晴らしい先生で、レッスンはもちろん、先生ご自身の演奏からも多くのことを学びました。ミュージカル、ブラスバンド、オーケストラ、ソロとやりたいことが多すぎて、どの道に進むべきか悩んでいた時期、先生の言葉に救われました。「それは自分が決めることではなく、周りが決めることだよ」とおっしゃって下さったんです。つまり、何でも一生懸命やっていれば、コレはあなたに向いている、向いていないと周りが決めてくれる、と。結果、まさに周りが決めてくれて今があるというわけです(笑)。他の先生も含め、良い師に巡り会えたことが武蔵野時代の一番の財産です。

—— 最後に武蔵野の後輩たちへのメッセージを。

黒田 図書館等の施設や楽器など、備品の使えるものは何から何まで使うべきです。例えば、私は最高で40種類もの打楽器を使う曲を演奏したことがあるのですが、これは環境が整ってないとなかなかできません。今しかないと思って積極的に利用したら良いでしょう。また、多くの音楽に触れることはもちろん、絵画や映画を見たり、違うジャンルの人とお話することも大切。一見つながらないように見えても、どこかで音楽とつながっていますから、そのようにして自分の器を広げることが大切だと思います。



楽園のような武蔵野での経験

●ルドルフ・ピールマイヤー（指揮／本学客員教授）●

武蔵野音楽大学管弦楽団が2012年に実施したドイツ演奏旅行の際、師であるヨゼフ・ツィルヒ先生と共に指揮を務めたのがピールマイヤー先生。キャリアは既に20年以上にも及び、これまでに数々のオーケストラ、世界各地のホールでタクトを振ってこられました。今回、本学客員教授として初来日され、本誌発行時には既に終了していますが、管弦楽団定期演奏会において再び指揮をとられます。本番を前に、ドイツ演奏旅行にも同行した本学・福井直昭教授がお話を伺いました。

（2014年9月3日インタビュー）



ルドルフ・ピールマイヤー

Rudolf Piehlmayer

ドイツ、シュトラウビング生まれ。ミュンヘン音楽・演劇大学にて指揮をヨゼフ・ツィルヒ、ヘルマン・ミヒャエルの下で研鑽を積み、レナード・バーンスタイン及びセルジュ・チェリビダッケの指導を仰ぐ。レーゲンスブルク歌劇場、スイス・ザンクト・ガレン劇場第一指揮者を経て、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団第一常任客演指揮者を務める。その他、ベルリン・ドイツ歌劇場、モーツァルテウム管弦楽団などに多数客演。1994年、バイエルン州振興賞受賞。

君は指揮者になるべきだ

福井 まず先生の音楽キャリアからお聞かせください。

ピールマイヤー 父がチェロとピアノ、母がヴィオラ、伯母がヴァイオリンを演奏し、伯父は指揮者と、いわば音楽一家に生を受け、小さな頃から音楽に親しんできました。5歳からピアノを、10歳からクラリネットを始め、15、6歳の頃から何となく指揮者に憧れていました。

福井 ミュンヘン音楽・演劇大学に進まれますが、専攻はやはり指揮だったのでしょうか？

ピールマイヤー ドイツでは指揮者になるにはピアノを習うことが必須ですし、幅広く音楽を学びたいと考えていました。そこで、主専攻をピアノ、第二専攻をクラリネットと指揮にしました。

福井 先生はクラリネット奏者としても活躍されたそうですね。

ピールマイヤー 1987年、国際ウェーバーコンクール（ワルシャワ）で入賞し、ベルリン・ドイツ・オペラが主催するオーケストラセミナーに参加した後、ベルリン交響楽団でソロクラリネット奏者を務めました。

福井 指揮者になろうと決めたのは、いつ頃だったのでしょうか？

ピールマイヤー 大学時代にツィルヒ先生に出会い、「君は指揮者になるべきだ」と言ってくださったのです。そこではっきりと進路が決まりました。プレーヤーとして活動しつつ、

あらためて大学で指揮者 H. ミヒャエルに師事し、同大学のマスターコースでは L. バーンスタイン、S. チェリビダッケの指導も受けました。

さまざまな楽団を指揮

福井 そして本格的に指揮者の道を歩むことになるわけですね。

ピールマイヤー 1991年にレーゲンスブルク歌劇場に、まずコレペティトゥーアとして採用され、「ヘンゼルとグレーテル」でオペラデビュー。翌年、第一指揮者に就任しました。その後、スイスのザンクト・ガレン劇場、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・ドイツ歌劇場、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団などで指揮しました。中でも音楽監督を務めたアウグスブルク・フィルには2002年から2009年まで、同じく2002年に「ばらの騎士」でデビューし、2007年に R. シャイーの推



▲アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督時代。ベルリンフィルのオーボエ奏者クリストフ・ハルトマン氏（左）とのレコーディング風景（2006年）



▲ ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の演奏によるバレエ公演後、カーテンコールで観客にこたえるピールマイヤー先生(ライプツィヒ歌劇場／2010年)

薦で第一常任客演指揮者に就任したゲヴァントハウス管弦楽団には2010年までと、長きにわたりお世話になりました。今日、写真をお持ちしましたが、オーボエソロの C. ハルトマンと共演し、「オーボエ超絶技巧作品集」(EMI)を初録音したのもこの時代のことです。

福井 2005年には特別な公演がありました。

ピールマイヤー “アウグスブルクの宗教和議450年記念”の行事の一環として行われたアウグスブルク・フィルの演奏会のことですね。アイスホッケー場で、マーラーの「交響曲第8番」を指揮しました。160人のオーケストラ、400人以上の合唱という大掛かりな舞台でしたが、大成功をおさめアウグスブルク劇場賞の特別賞をいただきました。

フリーの指揮者として

福井 ゲヴァントハウスを離れてからは、ずっとフリーですね。

ピールマイヤー 長い間、アウグスブルク・フィルとゲヴァントハウス管弦楽団の指揮を並行して受け持ち、常にタイトなスケジュールでした。ある年はゲヴァントハウスで1シーズン80回もの公演を行い、また1ヵ月で6つの異なる演目のオペラを18公演もこなしたことさえありました。さすがに体力的にも大変でしたし、そろそろ新しいことに挑戦したいということでフリーになり今にいたっているわけです。

福井 フリーになってからの活動、

フリーになった感想は？

ピールマイヤー

2011年にはマゲブルク歌劇場(ドイツ)で J. マスネ「ウェルテル」を指揮、同年、ノルウェー・オス

ロの国際歌劇場で「魔笛」を指揮しました。そして2012年、武蔵野音楽大学管弦楽団のドイツ演奏旅行の公演に参加させていただきました。フランスやノルウェー、日本などの国々で、以前とは違いじっくりと一つの仕事に取り組める今の状況は幸せですし、満足しています。

福井 今後の活動予定をお聞かせください。

ピールマイヤー 今年の12月、ドイツ・ニュルンベルクのマイスタージンガーハレで、モーツァルトとベートーヴェンのシンフォニー、ドイツの現代作品などをやります。さら到来年1月には、フランスの国立オペラハウスで「ローエングリン」の公演を5回ほど行うことになっています。

ドイツの音楽状況

福井 母国ドイツの現在の音楽状況はいかがでしょう。

ピールマイヤー 現在、ドイツ国内には150ものオーケストラがありますが、その数は年々減ってきています。生の音楽に触れる機会も減り、



音楽に接するのはパソコンやモバイルの画面を通してだけ、という若者が増えています。演奏会に来て生の音に触れてもらえれば、クラシックの素晴らしさにきっと気づいてくれる筈ですが、親がなかなかそうした機会を提供しようとしません。社会環境も変わり、私が子供の頃は普通に皆が楽器をプレーしていたのに、今の子がプレーするのはゲームばかり(笑)。当然コンサート自体も減るといふ悪循環ですね。こうした状況を打破するためにも、いかに若者が会場に来てくれるかを考えなければなりません。一つの方法として、ロックバンドとオーケストラの共演などもあり得ると思っています。

福井 ドイツの音楽大学の現状は？

ピールマイヤー 私の母校のミュンヘン音楽・演劇大学にはおよそ900人の学生が学んでいます。基本的に授業料は無料です。授業料は取らない、国からの援助は縮小傾向にある、こうした状況では指導者も離れてしまいがちで、教育の質の低下につながりかねません。良い教育を受けるには、ある程度の出費はやむを得ないのではないのでしょうか。諸々を考えると、残念ながらドイツ全体の音楽のレベルは、決して上がっている



▲ 武蔵野音楽大学管弦楽団ドイツ演奏旅行 ミュンヘン公演(2012年 ヘラクレスザール)



▲ 本学管弦楽団演奏会 東京オペラシティ コンサートホールでのリハーサル風景(本年9月12日)

とは言えませんね。

音楽を楽しみなさい

福井 先生が指導を受け、武蔵野の名誉教授であるヨゼフ・ツィルヒ先生のことをお聞かせください。

ピールマイヤー 「ハートを持って指揮をこなさい」それが先生の一歩の教え。いかにリハーサルで厳しくしようと、ハートがあれば良好な関係を保てるということです。スコアや音楽そのものから湧き上がってくるもの、そして自分自身のフィーリングを、楽団員に対して言葉や仕草や歌など様々な手段を駆使していかうまく伝えるか、それを実践されている先生から多くを学びました。

福井 2012年のドイツ演奏旅行で本学の学生を指導して、どのような印象をお持ちになりましたか。

ピールマイヤー 私にとっては、まさに「パラダイス(楽園)」。それほど素晴らしい経験でした。私語が多いドイツの学生に比べ、武蔵野の学生は真剣に話を聞いてくれ、伝えたいことがスムーズに伝わるのが驚きでした。最初のリハーサルから本番まで、ずっと上昇ラインを描いて仕上がっていったことが、その証明でしょう。優秀な学生と組織化された運営の下、リラックスした環境で指揮に集中できたことに感謝しています。

福井 いえ、こちらのほうこそお世話になりました。演奏旅行が大成功に終わったのも、ツィルヒ先生、ピールマイヤー先生のおかげです。

ピールマイヤー ミュンヘン王宮内にある世界トップクラスのホールのヘラクレスザールで、ベートーヴェン「ピアノ協奏曲第3番」、チャイコフスキー「交響曲第6番」などを指揮できたことは、このうえなく幸せで

した。かつてはミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、現在ではバイエルン放送交響楽団の本拠地であるこのホールの音響は、現在ミュンヘン・フィルが使用しているガスタイクよりずっと優れています。

福井 最後になりましたが、これから行う本学管弦楽団の定期演奏会についての抱負、そして武蔵野の学生へのメッセージをお願いします。

ピールマイヤー 札幌や青森にも行けるということで、楽しみにしています。練習はハードですが、学生たちはとてもオープンで、私自身リラックスして毎日を過ごせています。コンサートそのものは、ドイツ演奏旅行同様に万全な準備ができていますので、素晴らしいものになるでしょう。学生へのメッセージは、「音楽を楽しみ、音楽に接するときはいつも笑顔で」ということですね。「笑いのない一日は、失われた一日である」そんな言葉がドイツにはありません(笑)。

福井 本日はありがとうございました。

音楽の万華鏡 28

音楽用語としての「手」

「手」は、本来体の一部、辞書的に言えば「脊椎動物の前肢の末端部分」を指す用語だが、日本音楽の世界では「節」と並んで重要な音楽用語である。しかし、日本で受容されている西洋音楽の世界で、「節」が広く使われているのに対して、「手」が音楽用語として使われることはあまりないように思う。「手が回らない」ということは言うが、これは、器楽演奏において、手の一部である「指」が思うように速く動かない場合に用いるのであって、音楽用語というよりは、むしろ体の一部をさす本来の用法といえる。

日本音楽の世界では、「節」が声楽に関わる用語であるのに対して、「手」は器楽の旋律や奏法を意味する語である。それも、

弦楽器(日本の伝統的な用語では「弾きもの」)、または打楽器(同じく「打ちもの」)について話す時によく用いられる。

日本音楽の辞典類をみると、「手」だけでなく、手付、手事、手組、手数、手移り、手のもの、合の手、本手と替手、手ほどき、など、手と組み合わされた語もたくさん収録されている。

「手付」は器楽の旋律を作曲することである。とくに日本音楽の曲作りは、無から旋律を作っていくのではなく、既存の歌や旋律に器楽の旋律を追加したり、あるいは、既存の旋律型を組み合わせたりしてなされることが多く、西洋音楽という「作曲」の概念とは少し異なっているので、「手付」という言葉は実態に即していて便利である。

「手のもの」といえば、「歌のもの」に対して、器楽曲、あるいは器楽が中心の曲のことを言う。「本手と替手」は、主旋律と対旋律をいう。

「合の手」は、歌や踊りを盛り上げるため

に合間に奏される器楽部分を言う。転じて相手の話に「合いの手を入れる」という表現が、相手の話しを盛り上げるような言葉をはさむという意味で使われているのは周知のとおりである。

合の手が発達して長くなったものが「手事」である。江戸時代に発達した室内楽の中心的な存在が、三味線伴奏つき歌曲である「地歌」であるが、この地歌の世界で、歌の合間に入れていた合いの手が、器楽への関心の高まりとともに、だんだんに長くなり、18世紀後半になると、「手事」という長い器楽部分を途中に持つ作品が作られるようになる。こうした作品群を「手事もの」という。18世紀後半と言えば、ヨーロッパでも、器楽に対する関心が高まって、交響曲や独奏楽器のためのソナタなど、器楽曲が盛んに作られるようになってきた時期である。時を同じくして、日本でも器楽への関心が高まっていたのである。

薦田治子(本学音楽学教授)

著名指揮者を迎えてウィンドアンサンブル&管弦楽団演奏会

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブルの夏の公演が、去る7月11日東京オペラシティ コンサートホールにて開催されました。また、それに先駆け同窓会宮崎、大分両支部の方々のご協力により、7月8日宮崎市民文化ホール、7月9日 iichiko グランシアタで演奏会が行われ、台風接近による影響がある中にもかかわらず多くの方にご来場いただきました。

指揮者に、米国で幅広く活動するバンドディレクターのジェームズ・ランブレクト教授を迎え、マルコフスキ：リメンバー・ザ・モリキュール（日本

初演）で華々しく幕開け。続いてグラサンサム：舞楽、スパーク：ダンス・ムーブメンツ、本学出身、八木澤教司：「エディソンの光」～メンロパークの魔術師、グレインジャー：コロニアル・ソング、リード：アルメニアン・ダンスパート1、全日本吹奏楽コンクール課題曲などが次々と演奏され、学生たちが磨き上げた力強いサウンドに、盛大な拍手が送られました。

ウィンドアンサンブルの公演に続き、武蔵野音楽大学管弦楽団の演奏会が、9月12日東京オペラシティ コンサートホール、9月13日本学入間キャンパスバウハザールで、これに先立ち青森県および北海道の同窓生たちの多大な支援により、9月6日リンクステーションホール青森（青森市文化会館）、9月8日札幌コンサートホール Kitara 大ホールで開催されました。

2012年のドイツ演奏旅行において本学管弦楽団と共演し、



今回が初来日のルドルフ・ピールマイヤー教授による指揮で、チャイコフスキー：幻想的序曲「ロメオとジュリエット」、モーツァルト：ピアノ協奏曲 第20番 K.466、ベートーヴェン：交響曲 第7番を熱演。ピアノ独奏は学生オーディション合格者 久保慶恵（音楽学部ヴィルトゥオーソ学科3年）、田村友美（音楽学部ヴィルトゥオーソ学科4年）が務め、華やかなテクニックを披露。オーケストラは、ピールマイヤー氏の指導により作り上げた若々しい響きで、会場を魅了しました。



好演が続いた前期公開講座シリーズ

❖ 室内管弦楽団演奏会

武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会が6月27日、ベートーヴェンホールで開催されました。

数々の著名なオーケストラでコン

サートマスターを務めてきた本学客員教授、クルト・グントナー教授指導・指揮の下、学生と若手卒業生を中心に構成された室内管弦楽団。2008年新設以来、武蔵野の新たなサウンドとして定着し、多くの音楽ファンが毎回楽しみに来場していただきます。

プログラムは、モーツァルト：ディヴェルティメント ニ長調 K.205、バルトーク：弦楽のためのディヴェルティメント BB118、ベートーヴェン：交響曲第4番。グントナー教授のきめ細かな指揮により、それぞれの楽曲の特色を見事に表現し、伸びやかな

弦楽器と生き生きとした管楽器のアンサンブルが、満員となった会場に爽やかに響きわたり、聴衆の心を捉えました。

❖ ケマル・ゲキチ ピアノリサイタル

去る7月3日、世界で活躍するピアニスト、ケマル・ゲキチ本学客員教授のピアノリサイタルが、ベートーヴェンホールにおいて開催されました。

プログラム前半は、ベートーヴェン＝リスト：交響曲第5番「運命」、ワーグナー＝リスト：《タンホイザー》序曲のトランスクリプション。幅広い音色と響きを駆使して、オーケストラを彷彿させるスケールの大きな音楽を劇的に表現しました。

後半はラフマニノフ：10の前奏



曲、絵画的練習曲集等からの数曲を、多彩なテクニックをちりばめ、繊細かつダイナミックに披露。続くゲキチ教授自身の編曲によるムソルグスキー：交響詩「禿山の一夜」、バラキレフ：東洋風幻想曲「イスラメイ」で

は終始名人芸を繰り広げ、観客を熱狂させました。鳴り止まない拍手に応えてのアンコールに、詰め掛けた満員の観客らは興奮冷めやらぬ様子で、いつまでもスタンディングオベーションが続きました。



武蔵野音楽大学&チューリッヒ芸術大学交流コンサート開催

去る6月20日、武蔵野音楽大学・チューリッヒ芸術大学交流コンサートが、本学ベートーヴェンホールで開催されました。

これは、サントリーホールが主催する世界の名門音楽院の学生を招いて開催される「サントリーホールレインボウ21インターナショナル」に招

聘された、チューリッヒ芸術大学の一連の演奏会。企画の一環である、日本の音楽大学との交流プログラムに、本学が選ばれ実現しました。併せて本年、日本・スイス国交樹立150周年にあたり、その記念事業として開催されたものです。

演奏会は、両大学それぞれのプログラムと合同のプログラムで構成され、ミヨー：組曲《ルネ王の暖炉》／エヴァルド：金管五重奏曲第1番（以上武蔵野）、シュニトケ：弦楽三重奏曲より／マルティヌー：組曲《調理場のレビュー》（以上チューリッヒ芸術大学）などを演奏しました。

演奏会に先立ち開催されたカルミ



ナ・クアルテットのメンバーの指導による室内楽マスタークラスで、合同演奏するモーツァルト：弦楽四重奏曲 第17番「狩」の指導を受け、短い練習時間でしたが、その成果を演奏会で披露しました。出演者全員でのカーテンコールに、会場から温かい拍手が沸き、交流演奏会は成功裏に幕を閉じました。



附属音楽教室 夏期ミュージックキャンプ

清々しい風が吹き抜ける軽井沢の夏。今年も音楽教室の生徒たちがいちばん楽しみにしているミュージックキャンプが、本学軽井沢高原研修センターで開催されました。（入間・多摩教室7/31～8/2、江古田教室8/2～8/4）

キャンプでは普段の教室で経験できないアンサンブルや室内楽を中心に勉強、2日目の夜にはその成果を発表しました。準備会からの短い練習期間でしたが、コンサートでは生き生きとした素晴らしい演奏ができました。小学校3年生から高校3年生までの幅広い年齢層の子供たちが、寝

食をともにし、音楽を通して交流を深めるのがこのキャンプの特色です。音楽面でも生活面でも皆が協力し、それぞれ自分の役割を立派に果たした充実の3日間は、きっと一生の思い出となることでしょう。



▲ 軽井沢高原研修センター 大研修室にて

武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室 第21回オペラ公演のお知らせ

「ふしぎな魔法の笛」（原曲／W.A. モーツァルト《魔笛》）

演出＝大谷冽子 指揮＝前田 淳 演出補＝山内みどり、大川典子

【日 時】全4回公演 2015年1月11日（日）、12日（祝・月）

※両日とも開演時間は①12:30～②17:00～

【会 場】武蔵野音楽大学江古田キャンパス ベートーヴェンホール

【入 場 料】全席指定 A席 2,500円／B席 2,000円

【お問合せ】江古田音楽教室 TEL.03-3994-7536

着任外国人教授紹介 (平成26年度後期)



アルヌルフ・フォン・アルニム *Arnulf von Arnim* (ピアノ/ドイツ)

フランクフルト音楽大学に学び、パリにてビエール・サンカンに師事。マリア・カナルス及びヴィオッティ両国際コンクール第1位、ブゾーニ国際コンクール第3位。国際シューベルトコンクール音楽監督をはじめ、数々の国際コンクールにて審査員を務める。TV出演、レコーディングも数多く、近年ではシューマンの未公開曲「2台ピアノのための作品」「4手のためのピアノ作品」を初収録した。ヨーロッパ、アメリカ、ロシアの各地で演奏活動及び講習会を行う。現在、エッセン・フォルクヴァング音楽大学教授。



インゴ・ゴリツキー *Ingo Goritzki* (オーボエ/ドイツ)

ドイツのオーボエ奏者。フライブルク音楽大学でフルートをグスタフ・シェックに、ピアノをピヒト・アクセンフェルトに、さらにデトモルト音楽アカデミーのハンス・ペーター・シュミッツのもとでフルートを研鑽後、オーボエに転向。ヘルムート・ヴィンシャーマンに師事し、1964年ドイツ音楽大学コンクールオーボエ部門第1位、ブラハとジュネーヴの国際音楽コンクール入賞。バーゼル交響楽団、フランクフルト放送交響楽団の首席奏者を務めたほか、ハノーファー音楽大学とシュトゥットガルト音楽大学でも後進の指導に当たり、独奏および室内楽活動、マスタークラス、レコーディングを活発に行っている。



レイ・E. クレーマー
Ray E. Cramer (ウィンドアンサンブル指揮/アメリカ)

アメリカで最も優れた音楽学部として評価されているインディアナ大学で、2005年まで吹奏楽学科主任教授並びにバンドディレクターとして活躍し、2009年まで世界的に権威のあるミッドウェスト・クリニック会長を務めたほか、これまでも全米吹奏楽指導者協会会長をはじめ数多くの吹奏楽協会の要職を歴任している。「エドウィン・フランコ・ゴールドマン賞」、「バンド・オブ・アメリカ殿堂」、「第17回日本管打・吹奏楽アカデミー賞」等、数多くの賞を受賞。日本国内では、陸上自衛隊中央音楽隊や東京佼成ウインドオーケストラの指揮者にも招かれ高い評価を得ている。日本バンドクリニック委員会名誉顧問。インディアナ大学名誉教授、武蔵野音楽大学名誉教授。

平成26年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパスのお知らせ

武蔵野音楽大学・附属高等学校に進学を希望している高校生、中学生、小学生の皆さん、ならびにその指導者、ご家族の方々を対象としたオープンキャンパスを下記のとおり開催します。ぜひご参加ください。(参加無料)

【日 時】11月16日(日) 10:00～16:00 (予定)

【会 場】武蔵野音楽大学 入間キャンパス 【申込締切】11月4日(火)

【説明会の内容】●ガイダンス(大学、高等学校別に行います) ●ミニ・コンサート

●個別相談(希望者のみ) ●ワンポイント・レッスン(希望者のみ)

【お申込み・お問合せ】武蔵野音楽学園広報企画室

〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 TEL.03-3992-1125 FAX.03-3991-7599

※大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> から申し込みができます。

表紙の顔



平良栄一さん

平良栄一さんは、武蔵野音楽大学の声楽科教授・声楽学科長として、後進の指導に当たっています。

沖縄県出身。武蔵野音楽大学を卒業後、1970年から5年間イタリアに留学しました。ローマのサンタ・チェチーリア音楽院でG. ファヴァレット氏に師事し、修了後は引き続きミラノで研鑽を積みました。1974年、クロアチアのスプリット国立劇場と契約。

1975年、ジュネーヴ国際音楽コンクール銅賞受賞。帰国後は藤原歌劇団公演「秘密の結婚」パオリーノでデビューを果たし、その後「愛の妙薬」「夢遊病の女」「魔笛」等多くのオペラに出演しています。また、ハイドン「天地創造」、バッハ「ミサ・短調」、「カンタータ」等宗教音楽分野でも定評があり、さらには詩と音楽の会主催の「新しい日本の歌」に出演するなど日本歌曲にも意欲的に取り組んでいます。

1998年には海外派遣研修員として1年間ヨーロッパに留学し、スイス、バーゼル音楽院の演奏会に出演するなど研鑽を続けています。

その他、出身地である沖縄復帰10周年、15周年記念公演に主出演するなど、リサイタル活動を行う他、日本音楽コンクール、奏楽堂日本歌曲コンクール等の審査員も務めています。1983年沖縄タイムス芸術選奨・奨励賞、2004年同大賞受賞。

現在、武蔵野音楽大学教授・声楽学科長、武蔵野音楽協会会長、藤原歌劇団団員。

【今後の音楽活動】

●2015年

富山県青少年音楽コンクール審査員
詩と音楽の会主催 「新しい日本の歌」出演

思い出深い江古田校舎で同窓会全国総会開催

去る8月5日、平成26年度武蔵野音楽大学同窓会全国総会が、本学江古田キャンパスベーターヴェンホールにおいて開かれました。「武蔵野音楽学園江古田新キャンパスブ

ロジェクト」に伴い、来春には解体される現江古田校舎。同窓会当日は、思い出深い学び舎に別れを告げようと、全国各地から250名を超える同窓生が集いました。

総会では、川崎隆同窓会理事長の挨拶に続いて、福井直敬同窓会会長・本学学長が武蔵野の近況説明をされた後、DVDによる母校の状況が放映されました。さらに、福井直昭本学図書館長により、江古田新キャンパスについてイメージ図や模型を使って具体的な説明があり、同窓生は新たな都心型キャンパスの誕生に期待を膨らませて

いました。続く記念演奏会では、在学生が日ごろの勉学の成果を発表。母校後進の清新な演奏に、会場からは温かい拍手が送られました。続いて、会場をモーツァルトホールに移しての懇親会では、同窓生同士、近況や情報交換をしたり、尽きぬ思い出を語り合ったりと、和やかに歓談する姿が見られました。

武蔵野の歩みとともに歴史を刻んできた江古田校舎での開催となった今年度の同窓会全国総会。伝統を受け継ぎながら、新しい時代に向かってさらなる飛躍を遂げようとする母校の発展を願い、同窓生が一層団結を深めた有意義な一タとなりました。



武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、寄附金に対する税額控除制度の恩典が与えられたことに鑑み、江古田新キャンパス建設基金、福井直秋記念奨学基金並びに演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々よりご寄附をいただきました。ここに芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。 学校法人 武蔵野音楽学園

※ご芳名(五十音順)は、平成26年5月1日から7月31日までにご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号にて掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何とぞご了承ください。

【同窓生】 明村健太郎様 阿部千春様 五十嵐あけみ様 石上由加理様 石川恵理様 石川妙子様 石川晴子様 石原多美様 板井玲子様 伊藤郁子様 伊藤喜久子様 伊藤菊子様 犬木瑛子様 井上敏子様 岩田千嘉子様 印田倫子様 上里和子様 内野公子様 瓜生眞由美様 江川みどり様 飴澤俊雄様 小畑真理子様 掛札文香様 河西佐知子様 加瀬直子様 金子朝子様 金子稔子様 香山重子様 川谷登喜子様 川辺宣子様 河村公江様 川本百合子様 木下芙蓉子様 久多良木則子様 久邇邦昭様 古地 柳様 佐々木 毅様 志賀訓子様 島田佐和子様 下道ヨシ子様 鈴木澄子様 鈴木秀子様 高杉加保様 高杉直樹様 高野光子様 武内玲子様 武中佳奈様 武中利明様 龍田直子様 田中昭徳様 田中孝子様 田中路恵様 田辺伸子様 土屋栄子様 中 美知子様 永田伸子様 中野美都子様 中村幸子様 中村俊輔様 長柄弘道様 成田 啓様 原田はるな様 原田陽子様 弘中馨子様 福島ひろ江様 藤岡真理子様 藤岡睦子様 藤野眞幸様 藤本勝子様 古川 薫子様 北條節子様 堀江加奈子様 水上八千代様 宮城崇美子様 宮澤節子様 武藤葉子様 森岡 翠様 森岡靖子様 森田久美子様 森本佑子様 守屋雅恵様 矢島恭子様 安田久美子様 山田哲夫様 山中源子様 山本文子様 吉崎憲治様 吉田厚子様 吉野章子様 渡部はるみ様 同窓会群馬県支部富岡地区様 同窓会埼玉県支部一同様 同窓会栃木県支部足利武蔵野会様 同窓会兵庫県支部様 同窓会三重県支部一同様

【在学生・同ご父母】 石黒 正様 井出丈史様 伊藤俊介様 伊東立雄様 犬童精伸様 岩崎憲悦様 植木元昭様 上田公一様 上原佐和子様 打越孝裕様 大泉喜久雄様 笠原 力様 金山永伍様 日下敏文様 栗原優子様 桑田伸一郎様 高口宙之様 小林雅文様 齋藤嘉恵子様 佐久間芳子様 佐藤宣貴様 柴崎 昇様 清水敏之様 庄田幸弘様 末廣隆昭様 須藤征治様 高堂 伸様 高松 克様 武田拓也様 巽 保夫様 立本慎二様 中川浩克様 長澤健治様 野口義則様 花里貴明様 林 清文様 林 秀美様 廣澤正一様 廣田吉康様 本間敬二様 松元里美様 丸山正廣様 三上 卓様 水越玲子様 八代邦広様 山田世紀様 吉田静邦様

【役員・教職員・一般・他】 阿久津三智子様 安孫子和子様 池田京子様 池田 温様 磯崎友孝様 上原 明様 大内孝夫様 岡 珠世様 岡崎耕治様 加島良和様 金倉えりか様 金倉英男様 金 昌国様 栗山文昭様 小池ちとせ様 小林五郎様 小見山牧子様 佐伯真弥子様 堺 和男様 佐藤しのぶ様 重松万里子様 清水吉六様 砂田孝香様 関根弘美様 平良栄一様 高田千絵様 耕 修二様 千葉家門様 塚越淑子様 戸田史郎様 中川俊宏様 永田順子様 野尻 米様 野村邦武様 波多野美摩様 早川恭子様 日高正枝様 福井直敬様 前田 淳様 丸山忠璋様 箕田幸朗様 宮村裕子様 山越正秀様 渡辺亜紀様 ピアノ新人会様 (他に匿名を希望される方34名)

栄冠おめでとう！(コンクール入賞者等)

(順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの)

- 平成25年度文化庁長官表彰を受ける 松尾史子(昭和43年大学卒ピアノ専攻)
- NHK交響楽団に打楽器奏者として入団(平成26年7月)
黒田英実(平成20年大学卒打楽器専攻 本大学院修士課程修了)
- 第12回東京音楽コンクール 金管部門 第3位入賞(1位なし)、聴衆賞受賞
守岡未央(平成23年大学卒トランペット専攻)
- 第31回日本管打楽器コンクール パーカッション部門 第2位入賞
前田啓太(平成18年大学卒打楽器専攻)
- 第29回練馬区新人演奏会出演者選考オーディション 弦楽器部門 最優秀賞受賞
矢沢まどか(平成26年大学卒ヴァイオリン専攻 本大学院修士課程1年次在学)
- 第29回練馬区新人演奏会出演者選考オーディション 木管楽器部門 最優秀賞受賞
神農広樹(大学4年次在学オーボエ専攻)

●2014年(禾樂獎)国際器樂獨奏賽 International Musical Instruments Solo Competition (マレーシア) Piano Open Category Gold with Honor Award 受賞 坂口秀臣(大学2年次在学ピアノ専攻)、●第10回ルーマニア国際音楽コンクール 打楽器部門 第1位入賞、ルーマニア大使館賞受賞 岩倉長美(平成26年大学卒打楽器専攻 本別科在学)、打楽器部門 第2位入賞 鈴木詩織(大学4年次在学マリンバ専攻 本高校卒)、●第17回"長江杯"国際音楽コンクール ピアノ部門 大学生の部 第1位入賞、審査員特別賞受賞 橋本あすか(大学4年次在学ピアノ専攻)

※上記の他多数。大学ウェブサイトをご覧ください。

平成26年10月～12月 公開講座・演奏会のお知らせ

音楽学学科企画コンサート「モスクワ音楽院同窓会 ムラマニノフの原点」

10月8日(土) 18:30 モーツァルトホール(江古田) 入場無料(全席自由・整理券不要)

第17回 武蔵野音楽大学パルナソス多摩女声合唱団演奏会

指揮=片山みゆき ピアノ=池 美摩 10月10日(日) 19:00 シューベルトホール(多摩) ¥1,000(全席自由)
 曲目=グレゴリオ聖歌「主のご誕生を祝う聖歌」、フォーレ:小ミサ曲、三善晃作品による日本の四季 「朧月夜」「麦藁帽子」「栗の実」「雪の窓辺で」 他
 ※詳しい内容は、武蔵野音楽大学パルナソス多摩(TEL. 042-389-0711)までお問い合わせください。

アルヌルフ・フォン・アルニム ピアノ・リサイタル 偉大なる遺産～ピアノ音楽の聖典～

10月29日(土) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
 曲目=モーツァルト:ピアノ・ソナタ 第16番 変ロ長調 K.570、シューベルト:ピアノ・ソナタ 第21番 変ロ長調 D.960
 ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ 第29番 変ロ長調「ハンマークラヴィア」Op.106

アક્セル・パウニ 歌曲公開講座～20世紀以降の歌曲～

通訳=子安ゆかり 10月31日(日) 18:30 モーツァルトホール(江古田) ¥1,000(全席自由)

入間市「市民コンサート」 武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会(主催:入間市立中央公民館)(主催、お問い合わせ:入間市立中央公民館 TEL.04-2964-2413)

指揮=カールマン・ベルケシュ 11月9日(日) 15:00 入間市市民会館 入場無料(全席自由・要入場整理券)
 オーボエ独奏=太田妃佳里(大学3年・本学学生オーディション合格者)
 曲目=スッペ:《軽騎兵》序曲、モーツァルト:オーボエ協奏曲 ハ長調 K.314 (285d)、チャイコフスキー:《眠りの森の美女》組曲 Op.66a
 リスト:交響詩「レ・プレリュード」

ジャン=マルク・ルイサダ ピアノ公開講座 ～インタビュー&マスターコース～

インタビュアー=福井直昭 通訳=重松万里子 11月17日(日) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)

ニュー・ストリーム・コンサート23 ～ヴィルトゥオーソ学科演奏会2～

11月20日(土) 19:00 トッパンホール ¥1,500(全席自由)
 出演=原 日向子(Hp.)、木原 亨(Ob.)、上坂愛美(Pf.)、若田典子(Tb.)、太田妃佳里(Ob.)、田村友美(Pf.)

武蔵野音楽大学シンフォニック ウィンド オーケストラ演奏会

指揮=前田 淳 11月21日(日) 18:30 バッハザール(入間) ¥1,000(全席自由)
 曲目=デューカス:《ラ・ベリ》よりファンファーレ、C.T. スミス:交響曲第1番、ホルジンガー:春になって王たちが戦いに出るに及んで 他

ヴァンチェンツォ・スカレーラ 公開講座 ～イタリアオペラの歌唱法と伴奏法～

通訳=松本美和子 11月21日(日) 18:30 モーツァルトホール(江古田) ¥1,000(全席自由)

東京芸術劇場&ミュゼ川崎シンフォニーホール共同企画「第5回音楽大学オーケストラ・フェスティバル」武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会(主催:音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京芸術劇場)

指揮=時任康文 11月24日(月・祝) 15:00 ミュゼ川崎シンフォニーホール ¥1,000(全席指定)
 曲目=バルトーク:管弦楽のための協奏曲 Sz.116 ※同日は上野学園大学、洗足学園音楽大学も出演します。

武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会

12月6日(土) 16:00 バッハザール(入間) 一般¥1,500/学生¥1,000(全席自由)
 指揮=北原幸男 合唱指揮=栗山文昭 12月8日(日) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 独唱=泉 貴子(Sop.)、島木弥生(Alt.)、山田精一(Ten.) 6日・樋口達哉(Ten.) 8日、豊島雄一(Bar.)
 曲目=ブラームス:運命の歌 Op.54、ベートーヴェン:交響曲 第9番 ニ短調 Op.125「合唱付き」

武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会「モーツァルトのタペ」

指揮=クルト・グントナー 12月12日(日) 18:30 ベートーヴェンホール(江古田) ¥1,000(全席自由)
 共演=インゴ・ゴリツキー(Ob.)、岡崎耕治(Fg.) 他

武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会

12月17日(土) 18:30 東京オペラシティ コンサートホール ¥1,500(全席指定)
 指揮=レイ・E.クレマー
 曲目=コーブランド:戸外のための序曲、ウォルトン:スピットファイア 前奏曲とフーガ、レスピーギ:バレエ音楽《シバの女王ベルキス》よりII. 戦いの踊り 他

お問合せ ●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120 ●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108

※講師の病気、その他やむを得ない事情により、出演者・曲目等を変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※チケットは武蔵野音楽大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> でもご予約ができます。

武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 平成26年度 冬期講習会のお知らせ

講習会名	実施期間	申込 受付期間	会場
音楽大学 受験講習会	平成26年 12月23日(火) ～26日(金)	平成26年 11月12日(火) ～12月12日(金)	武蔵野音楽大学 江古田キャンパス
高校音楽科受験 講習会	平成26年 12月24日(水) ～26日(金)	平成26年 11月12日(火) ～12月12日(金)	

要項請求: 武蔵野音楽学園広報企画室、または大学ウェブサイトにてお申し込みください。(要項は無料、郵送料は学園が負担します)

お問合せ・お申込み: 武蔵野音楽学園広報企画室 TEL.03-3992-1125

大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/> からもお申し込みができます。

平成27年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学の各入学試験要項は、江古田キャンパスで取り扱っています。郵送をご希望の方(平成27年度受験対象者)には、無料でお送りいたします。本学ウェブサイトの「資料請求フォーム」からご請求ください。お電話でのお申し込みは、氏名、住所、電話番号、および附属高校、大学1年次、大学3年次編・転入、大学院、別科の別をお知らせください。

なお、冬期受験講習会を受講の方には講習期間中に配付します。

【お問合せ・請求先】武蔵野音楽学園広報企画室

〒176-8521 東京都練馬区沼沢1-13-1

TEL.03-3992-1125

大学ウェブサイト <http://www.musashino-music.ac.jp/>

バラフォン

カメルーン 幅101cm

調律した複数の音板を並べた木琴類は、欧米諸国を中心に広がるオーケストラ楽器の他、中南米、アフリカ、東南アジアなど世界の各地に様々な種類が広く分布しているが、これらはマリンバを中心に、時代をこえ民族をこえて意外な接点で結ばれている。

オーケストラマリンバは、もとを遡るとアフリカまでたどり着く。マリンバという名称もアフリカのバンドゥー語に由来するもので、平らな板を意味する単語「リンバ(rimba)」に複数を示す接頭辞「マ(ma)」を合わせたものである。さらに、木琴の起源には諸説あり、地面の穴の上に木の棒を渡して棒で叩いていたのが始まりとも言われている。

アフリカの木琴は、主に南アフリカではマリンバ、西アフリカではバラフォンと呼ばれ、地域や民族によって名称や形態は様々である。アフリカの木琴の最大の特徴は、共鳴させるため各音板の下につけられた瓢箪である。しかも瓢箪にはそれぞれ穴が開けられ、そこに蜘蛛の卵囊の薄膜をはるによりビリビリという独特な「サワリ」的音色を作り出す。

18世紀になるとアフリカの奴隷貿易により、人だけでなく楽器や音楽も一緒にアメリカ大陸へと渡っ



ていった。そして、遠くアメリカの地でこの楽器はマリンバと呼ばれ、現地の自然環境や中南米の多様な文化と融合しながら飛躍的に発展していったのである。最初の変化は共鳴



器であった。中南米産の瓢箪は細長かったため、自然と共鳴器が長くなった。共鳴器の膜には、蜘蛛の代わりに豚の腸の膜が用いられた。その後、共鳴器は瓢箪から木製のパイプへと発展し、20世紀に入ると、アメリカのDeaganによって金属パイプが取り入れられ、また、ピアノのような鍵盤の配置に改良が行われることにより、今日のオーケストラマリンバが誕生したのである。
(武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵)

江古田キャンパス楽器博物館休館のお知らせ

「江古田キャンパス楽器博物館」は、リニューアルオープンに向けて、現在休館中です。平成29年度完成予定の江古田新キャンパス内にリニューアルオープンいたします。なお、「入間キャンパス楽器博物館」及び「バルナソス多摩楽器展示室」は通常通り開館しています。休館中は、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきますよう、お願い申し上げます。

❖ 目次 ❖

- 音楽教育は美の教育である 守重信郎 ①
- 卒業生インタビュー ⑤
- 第三希望から打楽器の道へ 黒田英実
- 海外音楽事情 ⑦
- 楽園のような武蔵野での経験 ルドルフ・ピールマイヤー
- 音楽の万華鏡 ⑨
- 音楽用語としての「手」 薦田治子
- MUSASHINO NEWS ⑩
- ❖ 著名指揮者を迎えてウィンドアンサンブル&管弦楽団演奏会
- ❖ 好演が続いた前期公開講座シリーズ
- ❖ 武蔵野音楽大学&チューリッヒ芸術大学交流コンサート開催
- ❖ 附属音楽教室 夏期ミュージックキャンプ
- ❖ 着任外国人教授紹介
- ❖ 平成26年度 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパスのお知らせ
- ❖ 思い出深い江古田校舎で同窓会全国総会開催
- ❖ 武蔵野音楽学園教育運営推進協力寄附金 ご寄附をいただいた方々
- ❖ 栄冠おめでとう! (コンクール入賞者等)
- ❖ 平成26年10月~12月 公開講座・演奏会のお知らせ
- ❖ 武蔵野音楽大学・武蔵野音楽大学附属高等学校 平成26年度 冬期講習会のお知らせ
- ❖ 平成27年度 入学試験要項請求について

武蔵野音楽大学大学院

博士前期課程・博士後期課程

武蔵野音楽大学

武蔵野音楽大学別科

武蔵野音楽大学附属高等学校

武蔵野音楽大学第一幼稚園

武蔵野音楽大学第二幼稚園

武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園

附属音楽教室 江古田・入間・多摩

❖ 発行 ❖

学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス ●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1
TEL.03-3992-1121 (代表)

入間キャンパス ●〒358-8521 埼玉県入間市中神728
TEL.04-2932-2111 (代表)

バルナソス多摩 ●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1
TEL.042-389-0711 (代表)

<http://www.musashino-music.ac.jp/>

2014年10月1日発行 通巻第111号